

4 保護者とつながる

事例 11

「韓国語講座で和気あいあい」 ～言語の成り立ちを知り、保護者同士の関心が高まる～

5歳児 2月(在日2年)

こんなきっかけ みつけたよ！

韓国語が母語のA児の母親は日本語を話すことができる。A児の国の文化を他の保護者へも知らせ、多文化に触れる機会を作るため、5月の学級懇談会で、自己紹介を母語でしてもらうと、保護者の間にどよめきが起こった。趣味が韓国ドラマを見ることと話す保護者も多く、韓国は保護者にとっても関心が高いように感じた。耳にしたことのある他国の言語を取り上げることで保護者同士がつながるきっかけにできないかと考えた。



こうしたよ！

10月の焼き芋会に、手伝いとしてA児の両親が参加し、他にもサポーターの保護者が参加した。焼き上がりを待つ間、A児の母親が韓国にいた話をすると、日本語が上手なことに周りの保護者が驚いていた。保護者同士をつなぐ場として、韓国語講座の開催を提案すると、保護者からは「面白そう、参加したい」と声が上がった。その場でA児の母親に、挨拶やドラマでよく聞く簡単な言葉を知りたいとお願いし、講師を引き受けてもらった。

2月、講座開催の当日、A児の母親は自身で作成した資料をもとに、韓国でよく使われる挨拶やハングル文字の由来や仕組みを分かりやすく説明した。なかでも参加者の関心を集めたのは、平仮名で書いた我が子の名前を、ハングル文字に変換することだった。



積極的に園のイベントに参加してくれるA児の保護者と他の保護者をつなぐツールとして、韓国語を活用したいと考えました。



たくさんの保護者が「韓国語講座」に関心をもち意欲的になったことを受けて、A児の母親に直接お願いしたことで、講座開催が実現しました。



ホワイトボードや資料を見て書き表しながら「この文字は日本語の何になるのか?」「どう読むのか」など、A児の母親や参加者同士、やり取りを楽しんだ。

また、数字の読み方や書き方を教えてもらったりジャンケンと一緒にやったりして、和気あいあいの時間となった。

講座後、ほっとした表情のA児の母親は、参加者から「また教えて」「2回目はあるの?」など声を掛けられ、はにかみながらもうれしそうな表情になった。



【ハンゲル文字を教えるA児の母親】

ここが大事!

笑顔のコミュニケーションで保護者同士がつながります

保護者同士をつなぐきっかけ作りは、保護者の得意なこと、興味関心があること、趣味嗜好などいろいろあります。互いが尊敬し合えるきっかけを見付け出し、積極的に機会や場を作っていくとよいです。

保護者同士の関わりは、対面で互いの表情を見ながらコミュニケーションが図れるよう支援していきましょう。



コラム 保護者に伝えたい（家庭では母語での会話を大切に）

保護者への支援の一つで大切にしたいことは、「保護者が一番得意な言葉を家庭で使うようにする」ということです。日本語以外の母語を話す保護者は、日本語が十分習得できていない場合でも、我が子が少しでも日本語が分かるようにと、片言の日本語を話そうとすることがあります。しかし、家庭では保護者の得意な言葉（母語）で会話をし、子供が母語をきちんと習得することが大切です。幼児期は家庭でも園でもたくさんの言葉のシャワーを浴び、言語を獲得していく時期です。この時期に、子供と保護者との意思疎通を図るための言語を獲得していくことが必要です。

幼児期は、保護者との意思疎通がうまくいかないという問題に直面することはほとんどありません。しかし、2つの言語が年齢相応に達していないと、小学校以降に保護者へ自分の複雑な感情や考えを伝えられないという問題が表面化することがあります。このことを、保育者が理解しておくことが重要です。今、目の前にいる子供たちに対して、先を見据えた適切な関わり方を考えていくことが求められます。